

# 私のコロナ体験記

高津5期 伊藤公博

4月20日正午過ぎ、北野卸売市場の入口で、大雨の中私は途方に暮れていました。帰り道が分からない。道を尋ねようにも大きな市場の中には人がいない。八王子のまちに人がいないのです。

今朝（4月20日）のことです。初江（妻）が毎日使っている写経用の筆ペンのインクがなくなったと言いました。先に買っためていた手持在庫を使い切ったのです。いつも買いに行く店はコロナ被害対策でお休みです。

初江は暇を見つけて、般若心経を日に1～2枚うつし書きし、一日も休んだことはありません。野口さんの息子さんの聡一さんの最初の宇宙飛行のとき、その活躍ぶりをテレビで見て「私も何かしないと…」と思いたったのでした。それがコロナによって中断されるのです。



八王子の文房具屋に片っ端から電話で筆ペンインクの在庫の有無を問い合わせ、北野卸売市場にある文具店を見つけました。腰痛を抱えて外出ままならぬ体調にもかかわらず今から買いに行くという。「不要不急の外出自粛」がお国から要請されているのに。「墨を磨るくらいは手伝う」という私の提案も拒否され、結局私が買いに行くことになった次第。

行きは大雨の中でしたがタクシーを頼んだので順調でした。日ごろの渋滞が信じられないほどの少ない交通量で、あっという間に卸売市場の入口に到着、広い市場でしたが2、3回店の所在を確かめるだけで、目的のインク購入の大役を果たしました。ところがです。「行きはよいよい 帰りは怖い。」 来た道を戻ればよいと、たかをくくっていたのが大間

違い。広い卸売市場の中をいったりきたりしてやっと出発点の市場入口に戻ることができました。それからが大変。ここから京王線北野駅にはどう行けばいいのか。食事のためか、大雨のせいか、それともコロナ対策の外出自粛の為か。正午過ぎの市場の中は人影まばらです。遠くにバス停らしきものが見えますが、乗る人影らしきものも見当たりません。諦めてタクシーを呼ぼうと卸売市場の入口にある事務所に向かった時、止まっていた小型自動車から初老の婦人が降りて来たので、声を掛けました。

「京王線北野駅にはこの道を真っすぐに行けばいいのですか？」

「いいけど、歩いて行くの？」

「そうです。」と答える私に

「おじいさん、ここで5分待ってなさい。動いちゃだめよ。」

と言いついて市場の中に入ってゆきました。服装から見て、入口そばの店の方だったのでしょう、すぐに出てきて私を助手席に乗せてくれながらこう命令しました。

「おじいさん、口をきいてはだめよ。コロナは怖いんだから。」

私はこのご夫人に助けられて、やすやすと北野駅に着くことができました。「口をきいてはだめだ」と言われたので、お名前も伺うこともかなわず、彼女のご親切に只々頭を下げるばかりでした。